

GINZA SIX *magazine*

A Magazine for Ginza / Tokyo Lovers

ISSUE 2

Spring 2019



変わろう、そろそろ、春だから。

G S I X

Tradition

伝統を見つめ、未来を描く

グラフィックデザインの視点で見つめ直した日本の伝統
未来へ継承するために、まず目を向けたいものとは？

「D-BROS（ディーブロス）」は、企業の広告やグラフィックデザインを手掛けるデザイン事務所「ドラフト」によるプロダクトのショップです。ここでは日本の伝統文化やエッセンスを取り入れた新しいプロダクトを展開しています。銀座を舞台に、多様な文化の継承を目指すGINZA SIXとは親和性も高いのではないのでしょうか。日本の伝統を見つめ直すなか、グラフィックを生業とする私たちは自身に近いところからのづくりを始めることにしました。それが家紋です。

それぞれの家を象徴する家紋は、日本におけるグラフィックデザインのルーツといえるでしょう。学ぶうちに、残念ながら家紋は体系的に保存がされておらず、現在も墓石から写し取られるなどの地道な作業が行われていることを知りました。これをグラフィックとして整理し、約2万点はあるといわれる中から350点ほどを選び1冊の本としてまとめました。これを手掛かりに、私たちは職人の創造性を刺激するようなグラフィックのアイデアで技術を支えたいと考えています。

伝統工芸において職人が仕事を続けていくことは大きな課題であり、これを支えていくことも目的のひとつと考えています。

また、伝統を見つめる中で日本が美しい島国であることを再認識するに至りました。南北に長く地学的にさまざまな表情があり、豊かな四季を持つ。これを形にしたもののひとつが、立春や春分など1年を24に分節した暦「二十四節気」です。この暦を辿るだけでも、衣や食、植物にさまざまな姿形があり、道具や遊びも季節によって多様であることを知れます。これを理解し、形にすることで世界に伝えられるものが生まれるのではないのでしょうか。ただ過去を礼賛するのではなく、今という時代の風土をしっかりと考え、伝えなくてはいけない。最近は店内でこけしやけん玉に着色するワークショップを開催することもあります。お客様に直に体験していただくことで感じ取っていただけるものがあるように思います。今後は日本のものづくりをテーマに据えるほかのショップとも結びつき、複層的に文化を再発信していきたいですね。

お話を聞いた人 宮田 識 Satoru Miyata

「DRAFT」代表。1948年生まれ。クリエイティブ・ディレクター、アートディレクターとして企業の広告やブランディングなどに携わる。1995年からプロダクトブランド「D-BROS」を立ち上げ、プロダクトの制作、販売を開始。GINZA SIXの「D-BROS」における一連の制作物で、2017年度ADC賞ADC会員賞を受賞。



1. Kamon Fan



2. Flower Vase



3. Yoigoma



4. Kokeshi

GINZA SIX Finds

1. 「家紋」プロジェクトから生まれた扇子は紋が美しく見えるよう骨の形からオリジナルで製作。鮮やかな配色を加え、洗練された佇まいに仕上げた。写真の揚羽蝶のほか、変り柏、三ツ追松葉など、美しい家紋を楽しむ。扇子¥5,500 2. フラットなビニールの小口に水を注ぐと美しい花瓶に変身する。D-BROSを代表するプロダクト。次々登場する新柄にも注目。フラワーベース¥1,000（2柄入り）3. 伝統的なお座敷遊びから生まれた、飲み干すまで置けない「可壺」に着想を得た「酔独楽」。華やか印象のゴールドのほか、異なる色を重ねたシリーズも。酒器¥40,000（4点セット）4. 宮城県の鳴子温泉にある老舗「桜井こけし店」の工人が丁寧に削り出したこけしを、デザイナーたちが現代的に着色。こけしのフォルムはそのままに、動物などの異なる意匠がユニークな色使いによって描かれ、これまでのこけしのイメージを大きく変える。各こけし¥3,000～

Discovery

食の真髄を、アートに昇華

フードフロアにあるフォークとスプーンで縁取られたディスプレイ
食をモチーフに、目に美味しい作品はどう生まれるのか？

私はGINZA SIXのB2Fにあるフードフロアで、アートディレクターとしてウィンドウディスプレイを手掛けています。フードフロアですから、食を主題に季節を感じさせるディスプレイとし、7週間ごとに新たな提案をしています。

ウィンドウディスプレイは美術館と違い、心の準備がない状態で出会うもの。思いもよらぬ形で目にし、心を動かされるものにしたいと考えています。展示を替えるタイミングも季節の変化で暮らしのモチベーションが変わるタームを意識しました。以前に、銀座は長い時間をかけて路面にディスプレイを設け、街に賑わいをもたらすよう育ててきた歴史があると教えていただいたことがあります。地下ではありますが、ここもそうした歴史を受け継ぐ場に育てていきたいですね。

オンライン化が進むなか、人々が商空間に求めるものの変化しています。社会が成熟し、豊かさの意味も変わりました。その中で商いには何ができるのでしょうか。私はウィンドウを通じて新しい価値を提案し、新しい時代の豊かさや知の魅力

を楽しんでいただきたいと考えています。人は変化を続けるものですが、本質的な感性の力是不変だと信じているからです。そして食もまた人の感覚に密接な存在。ウィンドウで用いるモチーフは、みなさんが人生で何かしら触れたことのある食材やフードを取り上げています。その体験があるため、たとえば生姜を真っ青に染めることで驚きを演出することができます。GINZA SIXでは、ほかで手がけるウィンドウよりもアート性を高め、鑑賞者の身体に訴えかけるものを意識しています。そのことで食という体験の素晴らしさを喚起させるものにしたい。日本において、食は多様性を象徴する存在ではないのでしょうか。南北でさまざまな食材が育てられ、それらが交流して味が生み出されます。そのバラエティがこの国の食の豊かさを生み出しているんですね。

今、私たちが享受できる素晴らしいものと出会う場所。このディスプレイが、そんなGINZA SIXのフードフロアの入り口となることを願っています。

お話を聞いた人 佐藤寧子 Yasuko Sato

「Pranks」代表。1965年生まれ。アートディレクターとして、百貨店やファッションブランドのショップなどのウィンドウディスプレイを手がける。ユーモアとストーリー性豊かなディスプレイは高く評価され、アーティストとのコラボレーションのほか、多様な文化や自然科学を織り込んだ世界が多くの人々を惹きつける。



1. The Food Sphere



2. The Taste of Appreciation



3. The Taste of Flowers



4. The Taste of Form

GINZA SIX Finds

1. 2019年初春に展開されたディスプレイは、五穀豊穡を願う五種の豆の一粒を宇宙に見立て、物質の最小単位である分子をガムボールで表現することでウィンドウ内に小宇宙を作り出した。2. 2017年秋は、大地や切り株から切り出される断面をハムで表現。よく知る風景に意外性を持たせながら、食とは命の一部をいただくことであるというメッセージを込めている。3. 2018年春は、桜の塩漬けやすみれの砂糖漬けの風味をイメージし、佐藤らが自ら制作した和菓子「琥珀糖」を使ってウィンドウ内を花吹雪のように表現した。目に美しく、ガラス越しに甘い匂いまで香ってきそうな、鑑賞者の五感を刺激する作品は佐藤が得意とするところ。4. 2018年秋は、個体ごとに独自のフォルムを描く生姜の造形力に着目し、見慣れぬ色に染めることで彫刻のような形の魅力にフォーカスした。それをスケッチするミニチュアの人物を配するなど、細部を通じて豊かな物語を描いている。

A Sound Mind

私の仕上げに心を鍛える



Commute 軽快な「スニーカー通勤」はもはや当たり前

日常のさまざまな時間を無理なく使って、有意義にスポーツマインドを取り入れている女性こそ、最先端。早朝、通勤前にプールでひと泳ぎしたり、ヨガで頭を目覚めさせてから仕事に向かう人が増えている今、「スニーカー通勤」はすでに常識なのかもしれない。見慣れたいつもの朝の景色をスニーカーで颯爽と歩けば、よりポジティブな気持ちをもたらしてくれる。オフィスに着いてパンプスに履き替えることも、仕事モードに切り替えるいいスイッチになるはず。

クリーンなオールホワイトのスニーカーは端正なジャケットスタイルにもじっくりと馴染む。スニーカーとボトムの色合いを合わせたスニーカー通勤ありきのスタイリングを提案。グレーチェックブレザー ¥92,000／ラグ アンド ボーン 【3F】 ネイビーハイネックフレアスリーブトップス ¥75,000／アレキサンダー ワン【3F】 センタープレスパンツ ¥64,000（3月中旬展開予定）／3.1 フィリップ リム 【3F】 バッグ〈高さ26×幅24×マチ15cm〉¥215,000／マルベリー 【3F】 ホワイトスニーカー¥38,000／ワイスリー 【2F】

02



Mindfulness 瞑想は今、もっとも新しいトレーニング

体を鍛えると、当たり前だが、まず自分の体がぐっと引き締まる。自分の思い描く理想の体型で生きていることは女性にとって、シンプルに素晴らしいこと。ストレスを軽減し、自信を手に入れて、そしてファッションを存分に楽しむことだってできるから。そして一歩先行く女性たちは、体の次に心を鍛えることに夢中になり始めている。瞑想はその最たるもの。ほんの15分、目を閉じて頭の中を無にすることで得られる心と体の開放感は、想像以上。

カナダ、バンクーバー発の高機能アスレチックウエアブランド、ルルレモンにワイスリーのパーカーを羽織ったら、GINZA SIXの屋上庭園でヨガと瞑想を。お供はタオル シンクラボのタオル。最高級綿を使用した柔らかくて吸水性の高いタオル「スピンドロイアル」は一度使うと手放せない。グレーショート丈パーカー ¥40,000／ワイスリー 【2F】 レギンス ¥14,200・ヨガマット ¥11,000／ルルレモン 【5F】 上：フェイスタオル ¥5,500・下：バスタオル ¥12,000／タオル シンクラボ 【4F】

03



Smart Training テクノロジーを味方につけて鍛えてみる

オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツの士気が高まる中、トレーニング方法もスポーツジムも星の数ほどあふれている。GINZA SIXのB1Fにあるビューティテラス ギンザには加圧を取り入れたボクササイズや、バーチャルリアリティ空間で空を飛びながらエクササイズできる「VRイカロス」、スーツを身につけて行うトレーニングなどテクノロジーを駆使した、ユニークで効果の高いメニューが勢ぞろい。しっかり体を動かした後は「筋膜リリース」のエステで心もリラックス。

女性専用のトータルビューティサロン、ビューティテラス ギンザ。1回20-30分で終わる時短エクササイズが主流で、ウェアもレンタル可能。ちょっと時間が空いた時、気楽にボディメンテナンスに動じることができるのがうれしい。加圧ベルトを巻いてのボクササイズなら、テンションが上がる鮮やかなオレンジのナイロンジャケットで取り組みたい。加圧ビューティ30分初回¥3,240、VRイカロス(加圧式)45分初回¥4,166。ジャケット ¥59,000/カレン ウォーカー 【3F】 ブラックレギンス ¥14,200/ルルレモン 【5F】



Hole in One 誰かと楽しむスポーツを新たに始める

黙々とトレーニングに励み、体が変わる喜びを覚えたら、人は次に相手がいてこそ成り立つスポーツに目を向ける。スポーツで汗を流す時間を共有できる仲間がいることは、その人の日常を、そして社会全体を豊かにしてくれるから。年を重ねても長く楽しめる、ゴルフを始めてみるのはどうだろう。まずはファッションから入ってもいい。「スポーツを通じてライフスタイルを提案する」ことをコンセプトに掲げたGINZA SIXの1Fザ ハウスには個性豊かなゴルフウェアブランドが揃う。

軽やかなナイロンフーディはゴルフウェアとしてはもちろん、コートの下に合わせて旬のスポーツミックスを楽しむのもあり。ザ ハウスの店内で、ファッションブルなゴルフグッズのショッピングを堪能。トレンチコート ¥89,000/エキップモン 【3F】 レースアップナイロンフーディ ¥44,000 (セント・アンドリュース)・マルチドットパンツ ¥30,000 (マスターバニーエディション) /ザ ハウス 【1F】 カチューシャ ¥13,000/アレクサンドル ドゥ パリ 【3F】



Sporty Outfits スポーツミックスはもはや正装の仲間入り

ファッションは自分らしさの演出というのが前提。その上でTPOに合わせたトーン＆マナーを守り、会う人を慮って洋服を纏うことは決して制限ではなく、他人も自分もハッピーにする。今、スマートカジュアルの概念が広がっている背景には、そんな思いがあるのではないだろうか。ジャケットの代わりにスエットブルゾンを羽織り、レザーの代わりにメッシュ素材のバッグを手にする。そんな「スポーツミックス」は肩肘張らないリラックス感や親しみやすさをもたらしてくれる。



Eating Well 体の中から“キレイ”を導く

心を鍛えるスポーツマインドを底で支えてくれるのが、ヘルシーな食事。とはいえ、ストイックに考えすぎると心には逆効果となる可能性も。ときにはランチをスムージーに変えてみるくらいの緩やかさで細く、長く、楽しく続けることが大切。ショッピングの途中なら、GINZA SIX 5Fの72°ジュエサリー+カフェ バイ デイビッド マイヤーズにあるオリジナルのスムージーがおすすめ。スーパーフードをふんだんに使った1杯は栄養価、おいしさ、美しさ、すべてがパーフェクト。

ブルゾン ¥134,000／ヘルノ 【3F】 ドレス ¥70,000／ラグ アンド ボーン 【3F】 スカート ¥29,000／バイ マレーネ ビルガー 【3F】 バッグ 〈高さ35×幅47×マチ16cm〉 ¥74,000 (3月中旬発売予定)／アニヤ・ハインドマーチ 【2F】 ポーチ ¥6,000 (ジャックパニー!!バイパーリーゲイツ)／ザ ハウス 【1F】 アイモチーフペンダントトップ ¥155,000・クロスモチーフペンダントトップ ¥210,000・レザーコード ¥500 (イレアナ・マクリ)／ザ・ショーケース バイ デルバン 【2F】 パンプス／スタイリスト私物

遊び心たっぷりのアクセサリを身につけた女性が、かわいいピンク色のラズベリー・コナッツスムージーを手にとりこり。このバランス感こそが、現代女性の証。ホワイトブラウス ¥59,000／アディラム 【3F】 ストーンフープピアス ¥45,000 (アイラム バイ イレアナ・マクリ)／ザ・ショーケース バイ デルバン 【2F】 人差し指のリング ¥33,000 (ジェム・キングダム)・ダブルフィンガーリング ¥26,000 (デルフィーンヌ・シャルロット・バルモンティエ)／テアトル アッシュ・ペー・フランス 【4F】

For Your Purse



1. Scented Moisturizing Hand Cream WT



2. Banana-Hairclip & Hair Tie



3. Lime Basil & Mandarin Cologne



4. CR Tinted Hydrating Gel Cream



5. Brow Pencil

1. 手の乾燥が気になる外でのスポーツや、早朝のランニングに使いたいのがスックのハンドクリーム。麻布 香雅堂の監修で生まれた、ホワイティーの優雅で清らかな香りは、スポーツ時も邪魔にならない。重さを与える固形オイルと軽く滑らかなリキッドオイルがブレンドされたコクのあるクリームは、すっとまろやかに肌になじむ。SUOQU センティッド モイスチャライジング ハンドクリーム WT ¥4,000 (90g) / スック 【B1F】

3. トレーニング後に予定があるときや、ちょっと気分を切り替えたいとき、柑橘系の爽やかなコロンをひと吹きして。カリブ海に吹く風を思わせるライムの香りに、少し刺激的なバジルとホワイタイムを加えた香水は、ジョー マローン ロンドンの代表的な香り。持ち歩くのにとても便利な30mlサイズのボトルはデザインもシンプルでエレガント。ライム バジル & マンダリン コロン ¥8,000 (30ml) / ジョー マローン ロンドン 【2F】

2. 髪の毛をさっとまとめられるヘアアクセサリーを持っておくとし便利。ただの黒いゴムでは味気ないので、ここでもおしゃれ心をキープしたい。おすすめは、ヨーロッパの伝統的な職人技と日本の繊細なデザインとのミックスをコンセプトにした、アッカのクリップやヘアゴム。色やデザインが華やかながら、普段使いできるものばかり。ジムで人と差をつけたいという人にぜひ。バナナクリップ ¥8,000・ヘアゴム ¥9,000 / アッカ 【B1F】

4. アスレジャーファッションに似合う、軽やかで抜け感のあるみずみずしいツヤ肌づくりに最適。トレーニング後で時間がないうちにも、鏡を見ずとも指先にパール粒分を出し、スキנקリームのように塗ればいだけという手軽さがポイント。毛穴やキメの乱れが目立たない、艶やかな肌に仕上げてくれるのもうれしい。CR ティンテッド ジェル クリーム (SPF30・PA+++)
¥3,800 (35ml) / ベアミネラル 【B1F】

5. 基本的に運動はノーメイクで行うけれど、眉毛だけは描いておきたい女性は多いはず。ポリブテンオイル配合で、均一な色の伸びを実感できるメイクアップフォーエバーのプロウペンシルは2017年の発売以来、根強い人気。ロングラスティングなので、ポーチに忍ばせておけば安心だ。コーティングとカラーで眉を整えるプロウジェルもおすすめ。プロウペンシル 各 ¥2,400 (1.79g) / メイクアップフォーエバー 【B1F】

スポーツを始めれば バッグの中身も変わる

日常からトレーニングやスポーツを楽しむようになると、バッグや化粧ポーチの中身を変えたいくなる。汗に強いメイクアップアイテムやスリムボトルの香水、ヘアアクセサリなど、運動前後に役に立つビューティアイテムを紹介。



6. AQ Oil Infusion



7. Beauty Honey



8. Body Scrub "Rose Tea"



9. Body Oil "Relax"



10. Make-Up Finishing Mist

6. トレーニング後、ジムのロッカールームや洗面台でのスキンケアは、なるべく少ないアイテムでの時短美容が理想的。それならば、美容オイルで手早い保湿を心がけて。ノンオイルなさらりとした新感覚の使い心地が話題で、乾燥でくすみがち肌を明るく艶やかな肌に導いてくれる頼もしいオイルは、これだけで十分。コスメデコルテ AQ オイル インフュージョン ¥10,000 (40ml) / メゾンドコルテ 【B1F】

9. 筋肉の疲れや緊張を和らげてくれるオイルでボディケアを。血行促進、保湿に効果的なヘーゼルナッツオイルや、肌を落ち着かせるカモミール、心身の緊張を解きほぐすバジル、ビターオレンジが主成分だ。特にしっかりとほぐしたいときは、GIN ZA SIXのB1Fにあるクラランスのスキンスパで、リバランスマッサージ ¥17,000 (60分) のマッサージを。ボディ オイル "リラックス" ¥7,400 (100ml) / クラランス 【B1F】

7. 運動をすると体内に大量の酸素を取り込むために酸化スピードが早くなると言われている。抗酸化のサプリメント代わりに、ハッチのはちみつでいつでもどこでも、気軽にインナーケアを。おすすめはポリフェノールを豊富に含むフラバンジェノールとコラーゲンをプラスしたもの。持ち運びに便利なオリジナルバンド付き。ビューティーハニー フラバンジェノール®・コラーゲン入りはちみつ ¥3,700 (40g) / ハッチ 【B1F】

10. ジムでの着替え時にTシャツにファンデーションがついてしまい、気分が凹んだ女性も多いのでは？ イブサはそんな声に着目し、汗や皮脂による化粧崩れ、髪の毛や手などの接触やこすれによる化粧くずれや衣類への付着を防ぐミストを開発。「ソフトメッシュヴェール処方」でファンデーションを肌に密着させ、メイクしたてのような美しさと手触りが持続する。メイクアップフィニッシング ミスト ¥4,000 (58ml) / イブサ 【B1F】

アフターケアあってこそ スポーツは心に効く

女性にとっては特に、トレーニングで体を鍛えるのと同じくらい、終わった後に体と心をほぐすことが重要。手取り早く保湿してくれるオイルや紫外線ケアの美白美容液のほか、取り入れたいボディケアもこの機会に始めたい。

8. 運動で得た心地よい疲れをほぐす、バスタイムは至福。運動の負担で固くなったかかとやひじの角質ケアに動しよう。サボンの人気アイテム、ミネラルたっぷりの死海の塩に植物性オイルを配合したボディスクラブなら、年に1度の限定コレクションの「ローズティー」を狙いたい。ローズをあしらった特別なパッケージデザインにも癒されそう。ローズティー ボディスクラブ ¥5,092 (600g) / サボン 【B1F】

Inspiration Springs Forth

はるのすがた



想像の翼は、自分を変える最大の原動力だ。春は、その翼を思いきり羽ばたかせる景色に満ちている。たとえば、桜の淡いピンク。高揚感を誘い、装いも心も一新し、全身で新たな季節の喜びを表現したくなる。そんな気持ちに寄り添うのは、熟練の職人によるハンドステッチが美しい端正なデルヴォーの「プリヨン」。春を告げるイースターエッグを彷彿させる、爽やかな空色に染まったバッグは足取りを軽やかにし、楽しい場所へ連れていってくれそうだ。

バッグ「プリヨン ミニ」〈高さ16×幅20×マチ11cm〉¥519,000／デルヴォー [2F]



スイートピーのような可憐な花をつける春の植物、豌豆。伸びやかに描かれたその日本画に、香りに誘われるように蝶が集まってきた。その姿は、輝きをまとったヴァンクリーフ アンド アーベルのバビヨンのジュエリーだ。1906年に登場して以来、メゾンが大切にしてきた人気のアイコン。羽ばたきの一瞬をとらえた生命力あふれるアシメトリーな姿に自然界への愛情に満ちた視線が追づく。春を代表する幸福のシンボルが、新たな幸せを運んでくれるはずだ。

上から：「ドゥ バビヨン アントレ レ ア リング」〈YG×WG×ダイヤモンド×ラピスラズリ〉¥2,300,000・「ドゥ バビヨン リング」〈YG×WG×ダイヤモンド〉¥1,575,000・「ドゥ バビヨン ペンダント」〈YG×WG×ダイヤモンド〉¥1,575,000・「ドゥ バビヨン イヤリング」〈WG×PG×ダイヤモンド×ピンクサファイア〉¥2,600,000（以上予価）／ヴァンクリーフ アンド アーベル [B1F～2F]



明けゆく空に踊る白い音符は、滝廉太郎の名曲『花』の冒頭。この歌詞にもあるように、春は夜明けが美しい。紫を抜けて、ピンクとオレンジのグラデーションが魅せる神秘のとき。新たなはじまりを期待させる希望の色彩は、陽光の下で変幻自在に表情を変えるショパールのマザーオブパールの光彩を思わせる。とりわけ「ハッピーダイヤモンド」のタイムピースは、その上を自由闊達に動くダイヤモンドの煌めきと融合し華やかに誘惑する。

ウォッチ “ハッピーダイヤモンド ジョワイアリー” (RG×ダイヤモンド×マザーオブパール、アリゲーターストラップ、ケース径28.6mm、クォーツ) ¥3,480,000/ショパール [1F]



宵闇の川面に流れる桜の花びら。漆黒に色香を添える眺めに導かれるように、水底を覗いてみたくなる。いざ、その奥には目の覚めるような艶やかな世界が顔を見せるかもしれない。そんな神秘的な表情を秘めたクロコダイルレザーの至宝がクワンペンだ。モダンなデザインに、鮮やかな色彩とカッティングの妙が冴える。シンガポール生まれの王室ご用達ブランドらしい凛とした佇まいと、開放的な空気を宿すバッグは祝祭ムードを湛えた春の季節を濃密に彩る。

上：“エッジボクシーバッグ” (高さ16×幅23×マチ7cm) ¥321,296 下：“トレジャーチェストミニハンドバッグ” (高さ17×幅25×マチ9cm) ¥321,296/クワンペン [4F]



Ginza Nightlife Now

銀座の新しい夜

Ginza Sony Park

銀座にナイトスポットが続々と誕生しているが、2018年8月、ソニービルが地上と地下4層の「垂直立体公園」に生まれ変わった。コンビニがコンセプトのショップや飲食店を擁し、無料で体験できるイベントなども開催。夜中も解放中の屋外では、モード界のカリスマ、エディ・スリマンが復帰した話題のシリーズで。パリの夜がテーマのコレクションはナイトアウトに最適。男性モデル着用のルックは女性とのシェアも可能だ。

右：バイカージャケット ¥470,000・ドレス ¥750,000・バッグ “C シャイニーカーフスキン ウィズ パンピーユ スモール” (高さ14×幅17×マチ4.5cm) ¥310,000・ブーツ (ヒール8cm) ¥155,000 (以上予価) バングル ¥88,000 左：スパンサージャケット ¥375,000・シャツ ¥66,000・パンツ ¥110,000・ベルト ¥68,000・シューズ ¥95,000 (以上予価) プレスレット ¥96,000 /シリーズ [1F,2F]



PLUSTOKYO

2018年11月、商業施設キラリトギンザにオープンしたルーフトップを備えるミュージックラウンジ、プラストーキョー。12階のラウンジフロアは、昼間はカフェバー、夜は最大朝5時までクラブとして営業。銭湯絵師が描いた富士山 (p.16) には、フェンディのジャングルを思わせるインコのモチーフや、ローマを拠点とするアーティストであるニコ・ヴァシレーリ刺繍が呼応。一方でアーティスト小町渉が装飾を手がけたVIPルーム (p.17) は、ストリートを感じさせながらもクチュールの象徴フェザーを融合したヴァレンティノが馴染む。

p.16: ジャカードのドレス ¥390,000・シルクのブラウス ¥185,000・バッグ “バゲット” (高さ11.5×幅19×マチ4cm) ¥225,000・イヤークラブ ¥43,000 リング ¥52,000・サンダル (ヒール10.5cm) ¥115,000 右: ジャケット ¥283,000・ボロニット ¥72,000・パンツ ¥115,000・シューズ ¥115,000 / フェンディ [B1F~3F]

p.17: レザージャケット ¥460,000・デニム ¥65,000 (ヴァレンティノ)・フェザーのパケットハット ¥217,000・フェザーパッチ付きのスニーカー “パウンス” ¥138,000 (ヴァレンティノ ガラヴァーニ) / ヴァレンティノ [B1F~4F]





GINZA SIX GARDEN

日本が誇る四季の木々や水盤に憩うGINZA SIXの屋上、銀座最大級となる庭園は23時まで散策可能。ダンスをテーマにしたディオール最新のコレクションでドレスアップ、特別なディナーの後に訪れてみても。メッシュのジャンプスーツに軽やかに広がるミニドレス、足首までリボンを編み込んだシューズは、夜の空の下で思わず踊り出してしまいそう。手元には世界に先がけ日本先行発売の「ブック トート」のミニサイズを。

ドレス ¥1,100,000・ジャンプスーツ ¥92,000・ヘッドバンド “ジャディオール” ¥27,000・イヤリング “ジャディオール” ¥41,000・チョーカー “ジャディオール” ¥85,000・バッグ “ブック トート ミニ” 〈高さ28×幅36.5×マチ17.5cm〉 ¥250,000・シューズ 〈ヒール10cm〉 ¥134,000 (ディオール) / ハウス オブ ディオール ギンザ 【B1F~4F】



Hyatt Centric Ginza Tokyo

アジアではここ並木通りが初上陸、2018年1月に開業したハイアットが提案する新しいライフスタイル ホテルブランド。テラスも自慢のバー&ラウンジェリアは、レセプションに通じる階段のアプローチがドラマティック。1970年代を感じさせジェンダーレスなムードが漂うサンローランのコレクションは、ベロアのショードジャケットの袖からレースのブラウスがあふれ、伝説のギタリスト、ジミ・ヘンドリックスさながら。

左：ジャケット ¥420,000・ブラウス ¥470,000・パンツ ¥115,000・レオパードのボウタイ ¥45,000 チェーンウォレット “モノグラム サンローラン ケイト” 〈高さ12.5×幅19×マチ4cm〉 ¥175,000・サンダル “ベイジ” 〈ヒール14.5cm〉 ¥130,000
右：ウールのジャケット ¥325,000・シャツ ¥90,000・デニムパンツ ¥68,000・バンダナモチーフのタイ ¥30,000・ブレスレット ¥40,000・ブーツ 〈ヒール 3cm〉 ¥155,000 (サンローラン パイ アンソニー・ヴァカレロ) / サンローラン 【B1F~2F】

A Man's Work is Never Done

あなたのための一流品

身の丈に合ったものばかりに囲まれてはいけない。一流の環境を自ら作り、身を置くからこそ人は成長をすることができるのだから。あなたはもっと魅力的になれる。そうなる資格も手段もある。あなたのための一流品がここにある。



BALLY

生涯使える バッグに 出会う 幸せ

バッグは財産だ。ファッション的な視点で楽しむのももちろんいいが、自分の核となる一流品をひとつは持っておきたい。たとえばバリーのウィークエンダーバッグ「ストローク」のような。柔らかく上質なナッパカーフレザーは実にラグジュアリー。それでいてそれを無駄に誇示しない洗練性も備えたまさに名品だ。軽量ゆえ持ち運びにストレスがなく、シーンも不問。バッグ〈高さ27×幅44×マチ20cm〉¥178,000／バリー 【2F】

TOM FORD EYEWEAR

価値あるアイウェアとはこのこと

デザインに自分のイメージを合わせるのではなく、自分の顔に合うデザインを選ぶ。それを間違えると途端に、アイウェアはかけているというよりもかけられているという印象になる。トムフォード初の日本限定コレクションは、日本人の顔型に合わせフィット感を追求した、まさしく“待望の”商品。自然と顔に馴染む作りがうれしい。立体的に進化した両端のTアイコンも今までになかったもの。価値あるアイウェアが誕生した。サングラス¥51,000（トム フォード アイウェア）／アイスタイル 【5F】



UNDERCOVER

“不良性”は男性の永遠のテーマかもしれない

映画『The Warriors』からインスピレーションを得て、架空都市の8つの不良チームをテーマにした今季のアンダーカバー。このブルゾンは、その中でも黒を基調とした「VLADS（ヴラズ）」というチームのジャケットで、イギリスの伝説的バンド、パウハウスのメンバーDavid・Jが制作したグラフィックを取り入れているのがポイントだ。パリコレで異彩を放ち続ける同ブランド。ときには無難な服から一歩抜け出して、こんな感性に自分を委ねてみるのもいい。ブルゾン¥75,000／アンダーカバー 【3F】



SOPH.

普遍性を備えたレザー ジャケット

一生着られる服の最たるものといえば、レザージャケット。一生着るための服と言い換えてもいい。とはいえあまりにハードなものは気後れしてしまうし、着こなすのも難しい。そんなときにソフが提案する洗練性は大きな味方だ。襟を小さく、ベルトなどの付属を省略することで武骨さを抑えてミニマルにアレンジ。柔らかなレザーは着心地も良く、ボタニカル柄の裏地が絶妙な抜け感を演出してくれる。10年後、20年後のエイジングも楽しみだ。ジャケット¥140,000（ソフネット × ショット）／ソフ 【5F】



AZTECH MOUNTAIN

普段着に最高峰のアウトドアスベックを

ハイクラスなアーバンアウトドアウェアブランドとして知られるアズテック マウンテン。トレッキングウェアにフォーカスした今季は、ロングレングスのフィールドパーカ「エイジャックス レイントレンチ」が注目だ。透湿防水性に優れた3レイヤー素材を使用しているため、普段使いとしてはもちろん、レインコートとしても十分活躍。中綿入りのライニングは着脱可能でロングタームで着用可能。こんなに頼もしいアウターはなかなかない。コート¥108,000（アズテック マウンテン）／スプレnderズ 【5F】

VERSACE

ボリュームスニーカーこそラグジュアリーに

ボリュームスニーカーは今季も継続してトレンド。数多くあるが、ほかと差がつくチョイスを狙うなら断然ハイブランドのそれがいい。なかでも注目はヴェルサーチェの人気シリーズ「チェーン・リアクション・スニーカー」。その名にちなんでチェーンをかたどったソールは野暮ったさを見事にデザインへと昇華。パラコードのシューレースにはアウトドア的な遊び心がありつつ、光沢のあるレザーが贅沢さも漂わせる。ボリュームスニーカーの理想的なバランスだ。スニーカー¥111,000／ヴェルサーチェ 【2F】



DRESSTERIOR

春に似合う、カーディガン

カーディガン選びは単純そうで奥が深い。素材や編み地、デザインの組み合わせ次第で使い勝手が大きく変わるからだ。たとえばこのカーディガンは強く捻った糸を使用していることに加え、編地の柄がくっきり立体的に浮かび上がるバスケット編みを採用。ドライタッチで清涼感のある仕上がりだから、これからの季節にうってつけだ。さらにフロントにボタンをあしらわず、さらにと羽織るデザインになっているのもポイント。その軽妙さが、春に似合う。カーディガン¥17,000／ドレステリア 【4F】



MACKINTOSH

2着目のステンカラーカラーコート

オーセンティックで普遍的なコートを1着手に入れたら、次はもう少し遊び心のあるものを。歴史あるブランドの安心感があれば、こんな印象的なチェック柄も自信を持って取り入れられるはずだ。乗馬コートの名残である深めのサイドベンツを備えたこのコートは、ややゆったりとしたフォルムが特徴。生地も軽やかで余裕のある佇まいを演出してくれる。ブラックとイエローのタータンチェック柄は一見大胆なようでクラシック。コーディネートを選ばない。コート¥138,000／マッキントッシュ 【3F】



DENHAM

コーデュラ®素材をブレンド

日本が世界に誇るデニムファクトリーであるカイハラの、15オンスという重いセルビッジデニム生地を使用したモデル「ハマー」。最大の特徴は、ナイロンの約7倍の強度を持つコーデュラ®素材を生地にブレンドしているということ。そのため一般的なジーンズに比べ耐久性が抜群に高く、長く愛用できるようにできているのだ。もちろん、ジーンズの最大の魅力である色落ちも楽しめる仕上がり。新しい視点から生まれた、次世代的な「タフ」なジーンズは必見。ジーンズ¥43,000／デンハム 【5F】

CoSTUME NATIONAL

この1着で印象が一新

一見するとシンプルなテラードジャケットに見えるこのアイテム。実はラベルやポケットがすべて身頃と一体化した、トロンプルイユ的なデザインだ。オリジナルのストライプ柄の生地はランダムに裁断され、独特なパターンで配置されているのが特徴。パッチ風に見えるポケットは、実際は横から手を入れる仕組みだ。ベーシックなジャケットスタイルも、こんなユニークなアイテムがあればマンネリしたスタイルから抜け出すことができる。ジャケット¥68,000／コスチューム ナショナル 【3F】



FREEMANS SPORTING CLUB

ニットTシャツをワードローブの定番に

いい大人がTシャツ1枚で外出するのははばかられるが、それが上質感のあるニット素材であれば別。むしろ洒落だ。人気ドメスティックブランド、ナーディーズに別注した長袖ニットTシャツは、洗練された日常着として最適のアイテム。脇下には減らし目を入れることでニットらしさが演出されており、別注品ならではの配色もいい。色違いで大人買いしたくなる一品だ。ニットTシャツ¥24,000（フリーマンズ スポーディングクラブ × ナーディーズ）／フリーマンズ スポーディングクラブ 【5F】



ARTIOLI

ゲイリー・クーパーに想いを馳せて

1945年の創業以来、ローマ法王からハリウッド俳優まで名だたるVIPに愛用されてきたイタリアのシューメーカー、アルティオリ。これは1950年代に俳優のゲイリー・クーパーに作った靴の復刻品。モデル名もずばり「ゲイリー・クーパー」だ。素材には氏が晩年に好んだ、一般には流通していないイタリアの最高級のベビーカーフを使用。トゥは当時のものを忠実に再現しつつ、ボディは現代の足にフィットするようモディファイされている。靴¥300,000（アルティオリ）／ワールド フットウェア ギャラリー 【5F】



Drake's

春の装いの仕上げに、美しいスカーフを

ドレイクスのアークアイブプリントをベースにデザインされた、オリエンタルなムガル柄（インド・ムガル帝国時代の伝統芸術モチーフ：右）と愛らしいアニマルモチーフ柄（左）のスカーフ。独特の色使いで彩られたスカーフは芸術作品のようで、それでいて装いに馴染む絶妙なデザインだ。ムガル柄はコットン、モダール、カシミアの混紡素材で、アニマル柄はウール、シルク混素材。軽やかな触感が心地いい。スカーフ〈70×180cm〉各¥31,000（ドレイクス）／ブリティッシュメイド / ドレイクス 【5F】



N.HOOLYWOOD

個性的なトラディショナル

東京を代表するストリートブランドであるN.ハリウッドが、100年以上の歴史を持つアメリカを象徴するウールウエア&ブランケットブランド「ベンドルトン」とのコラボレーションでジャケットをデザイン。その仕立ては非常に軽く、まるで肩から薄手のブランケットをかけているかのような。エッジを切りっぱなしにしたデザインも特徴的。白いTシャツにこれ1枚羽織るだけでも、今季らしいスタイルが手に入れられる。ジャケット¥56,000（N.ハリウッド × ベンドルトン）／N.ハリウッド 【5F】

MOSCHINO

意外性を遊べる大人は魅力的

クラシックを知り、トラディショナルを楽しむのは大人の嗜みだが、一方でそれを軽やかに遊んでしまう“余裕”もそろそろ欲しいもの。装い慣れた者だからこそ取り入れることができる、ユーモアのあるデザインにも注目したい。なかでも今季モスキーノが見せるウィットのあるデザインは注目。ヴィンテージ風のデニムジャケットにあしらわれた一見刺繍のように見えるデザインは、実際はハンドペイントによるもの。距離を置いて見たときと近くで見たときの印象の違いが楽しい。デニムジャケット¥130,000／モスキーノ 【3F】



THE NORTH FACE

パートナーと呼ぶにふさわしい存在

プライベートにおいてもビジネスにおいても、移動を助けるのはバッグだ。そのストレスが少ないほど快適になる。では優れたバッグの条件とは何か。それは、耐久性があって、収納力が高く、臨機応変な持ち方ができて、シーンやスタイルを問わないデザイン性があること。ショルダーにもリュックにもなる「コーデュラバリスティック 3WAY デイバック」はまさにその条件を満たすもの。これほど考え抜かれたバッグは、そうはない。バッグ〈高さ36×幅50×マチ19cm〉¥30,000／ザ・ノース・フェイス アンリミテッド 【5F】

A New You

次の自分や気分を探す場所

個性豊かなセレクトショップが揃うGINZA SIX
さあ、はじまりの春——心ときめく逸品で、次の扉を開いて

これひとつで高揚する

大ぶりなビジュネckレスで、シンプルなト
ップスも意志ある装いに。ネックレス¥30,000
(タタボレロ) / シジューム ギンザ [2F]

SIXIÈME GINZA

「上質」と「新しさ」の柔軟な距離感

GINZA SIXの中央に位置する、大きな吹き抜けの真下に広がるシジューム ギンザ。
本物を知る大人の女性へ向けて、雑貨を中心に国内外からセレクトされた商品が
揃う。旬のブランドだけに留まらず、意外性を感じるアイテムやライフスタイル
グッズも随所に。ここだけの独自の世界観が、新しい発見をもたらしてくれる。

「気張ってないのに特別」がいい

愛嬌がありながら、こだわりの強く感じさせる
ローブバッグ。バッグ〈高さ30×幅38cm〉¥
32,000 (アリエニーナ) / シジューム ギンザ [2F]



構築的な足元でモードを主張して

スクエアトゥとかかとのパール…涼としたパワ
ーが満ちる一足。靴〈ヒール7cm〉¥110,000 (ニ
コラス カークウッド) / シジューム ギンザ [2F]



休日を変えるなら、まずは小物から

旬のベルトバッグはスマートなフォルムで。バ
ッグ〈高さ11×幅18.5×マチ6cm〉各¥62,000
(メゾン ボワネ) / シジューム ギンザ [2F]



ワントーンは凝ったディテールがカギに

今季気になるベージュのワントーン。普遍的な色だからこ
そ、いつもより思い切ったデザインで遊んでみたい。透け
感のあるギャザーブラウスに、ベルト飾りが付いたハイウ
エストスカートで今どきのエレガンスに。ブラウス¥42,000
・スカート¥42,000 (コート)・バッグ〈高さ11×幅20×マ
チ5cm〉¥27,000 (セルプイ)・靴〈ヒール6cm〉¥46,000 (ハ
ルマネラ) / シジューム ギンザ [2F]



端正なシャツを華やかに着る

真面目なフロント部分とドレッシーな袖のコン
トラストが新鮮。シャツ¥65,000 (アルビーノ
・テオドロ) / ビームス ハウス ウィメン [4F]



小さく主張するスペシャル感

繊細な細工と大胆な色味。印象を変えたいときは
耳元から考えてみるのも手。イヤリング¥27,000
(グリーン) / ビームス ハウス ウィメン [4F]



BEAMS HOUSE WOMEN

大人好みの色気あるトラッドが充実

ビームスの中でも、ハイエンドなコレクションを発信するビームス ハウス。トラ
ッドやクラシカルな系譜を大切にしながら真の服好きに愛されてきたショップだか
ら、ひねりの効いたデザインやトレンドの色柄アイテムも、確かな品格を携えて。
イベントなども催され、セレクトショップで買い物する楽しさを再認識できる。

上級者感を印象づけるシルバー

足元をメタリックに変えるだけで、瞬時に小気
味いいモードに。靴〈ヒール3.5cm〉¥49,000
(ペリーコ) / ビームス ハウス ウィメン [4F]



ジャケパンの可能性はまだまだ広がる

マンネリから脱却を目指すなら、きちんと感を残しながら
も、旬の色味と柄に注目を。ジャケット¥134,000 (ドナテ
ッラ・ラッジョ)・ニット¥25,000 (ジョン スメドレー)・
パンツ¥32,000 (エッフェ ビームス)・バッグ〈高さ19×幅
24×マチ8cm〉¥32,000 (イアクッチ)・靴〈ヒール2.5cm〉
¥111,200 (ルバート・サンダーソン)・イヤリング¥16,000
(グリーン) / ビームス ハウス ウィメン [4F]



デザインボトムの効果を見直して

凝ったベルト飾りのハイウエストパンツも、細
かなチェック柄なら上品。パンツ¥36,000 (ル
ーム エイト) / ビームス ハウス ウィメン [4F]



機能的なポーチで毎日を機嫌よく

スリムなルックスながら前後に4つのポケットが。ポーチ〈高さ22×幅14cm〉¥36,000（スマイソン）／ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】



極上の肌触りのカシミアリネン

きれいな色全盛の今季、あえてシックな色味でひねりを入れるのも有効。ストール各¥36,000（ジェーン・カー）／ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】

大人にこそ似合うマチュアな花柄

キャサリン妃も愛用するブランド。ドラマな服で「もうひとりの自分」に。ワンピース¥105,000（ゴート）／ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】



鮮やかな赤で気分転換

大人の女性が持つ赤い傘は、「意外性の魅力」につながることも。傘¥30,000（フォックス・アンブレラ）／ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】

Vulcanize London

英国流の「心地いい緊張感」をスパイスに

トレンドもカジュアルもひと通り経験した大人なら、ある日ふと「端正で折り目正しいもの」に気が向くことがある。そんなときに訪れたいのがヴァルカナイズ・ロンドン。老舗から最新ブランドまで英国アイテムが並ぶ店内は、心地よく背筋が伸びるよう。上質かつ洒落たエッセンスで、大人の装いがさらに一歩進化する。

かわいらしさと堅実さと

旅のお伴にも。バッグ(ストラップ付き)〈高さ155×幅23×マチ9cm〉¥158,000（グロブ・トロッター）／ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】



カジュアルに変化をもたらすモノトーン

ブルーデニムに飽きを感じたら、今季人気復活の白デニムにトライを。モノトーンでまとめることでより洗練されたニュアンスに。カーディガン¥25,000・Tシャツ¥8,000・パンツ¥23,000（ウィッスルズ）・バッグ(ストラップ付き)〈高さ15.5×幅23×マチ9cm〉¥114,000（グロブ・トロッター）・靴〈ヒール10cm〉¥64,000（シャーロット オリムピア）／ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】



バッグひとつで鮮度が変わる

異素材合わせの小物で季節感と個性をプラス。バッグ〈高さ17×幅25×マチ10cm〉¥45,000（カバフ）／レリターージュ マルティニーク 【4F】



ぐっとくる色味と質感

目に留まる美しいブルーを、上質なシルクカシミアで。ニット¥24,000（レリターージュ マルティニーク）／レリターージュ マルティニーク 【4F】



知性とエレガンスを備えた一着

ウエストを絞ったフォルムが端正な美しさ。ジャケット¥98,000（レリターージュ マルティニーク）／レリターージュ マルティニーク 【4F】



「印象に残る人」に直結

顔周りの「きれいな色」は、わかりやすく匂を語ってくれる。イヤリング¥10,000（ドミニク ドゥネーブ）／レリターージュ マルティニーク 【4F】



春だから、直感でときめく色と素材を

サフラン色のスカートとリネンのコート。計算されたロングシルエットなら今っぽさと品を打ち出せる。コート¥86,000・ブラウス¥50,000・スカート¥39,000（レリターージュ マルティニーク）・バッグ〈高さ20×幅26×マチ16cm〉¥43,000（アニタ ビラルディ）・靴〈ヒール1cm〉¥78,000（ニコラス カークウッド）・ピアス¥10,000（アプレスキー）／レリターージュ マルティニーク 【4F】

l'héritage martinique

ノーブルスタイルを見直すきっかけに

甘すぎなのは避けたいし、上品なだけではつまらない。「大人のフェミニン」は、どこかにモダンさをまとうせてこそ素敵に見える。レリターージュ マルティニークに、その絶妙なさじ加減をゆだねてみよう。上質な仕立てと素材にこだわりながら、女心をくすぐる匂の華やかさも抜かりなく。上級の女らしさに磨きをかけて。

HERNO One and Only

1948年の創業以来、丁寧な縫製で伝統を守りつつも、
機能性の高い素材でモダンティを追求し続けるヘルノ。
この春は、親子揃って最先端のアウターを楽しみたい。



2018年に創業70周年を迎えたヘルノは、北イタリアのマジョーレ湖のほとりにあるレーザという町で生まれた。雨の多いレーザの気候に着目し、レインコートからビジネスがスタートしたのも、人々の暮らしに寄り添うクリエーションを追求するヘルノらしいエピソード。以来、イタリアならではのサルトリア仕立てを軸に、ハイク素材を見事に融合させ、クラシックでもモードでもない、絶妙なバランスでアウターを作り続けてきた。GINZA SIXの店舗は、メンズ、ウイメンズに加え、キッズラインが豊富に揃うのも魅力。左から：コットンをボンディング加工した、リバーシブルのコート。レーザークットによるシームレスな作りで、構築的なフォルムが実現。メンズコート¥108,000 薄いポリエステル素材は着脱しやすく、着回しも自由自在。ボーイズナイロンウルトラライトベスト¥53,000〜 華やかでかわいらしいマドラスチェック。フードは取り外し可能。ガールズカラーチェックコート¥58,000〜 ウイメンズのコートも素材や加工は先に挙げたメンズと同じ。ウエストを程よくシェイプしたフォルム、鮮やかな配色で女性らしさを演出。ウイメンズコート¥129,000／ヘルノ 【3F】

お問い合わせ：HERNO GINZA 03-6263-9940 (10:30～20:30)

Books for Spring

一冊からはじまる新しい季節

GINZA SIX 6F「銀座 蔦屋書店」のコンシェルジュがセレクト
改めて春という候を知り、変わり目の私たちに気づきを与えてくれる、6冊をここに



『BOUQUET DE FLEURS』
ポール・ルストー 著
(¥8,800 Wombat Art Box)

VOGUEなどで活躍する1985年生まれフランス人写真家、ポール・ルストーによるオリジナルプリント2枚と、カードで構成されたBOX型作品集。小鳥・花・裸婦などのモチーフを水彩画のような揺らぎと鮮やかな色彩で捉え、春の白昼夢のような幻想的な世界を描き出している。中にはモネが拠点構えたジヴェルニーの自然を撮影したシリーズも。限定500部。



『花にもの思う春』
白洲正子 著
(¥1,000 平凡社)

白洲正子が奈良時代の万葉集、平安時代の古今集、鎌倉時代の新古今集などを独自に解説した上で、藤原定家をはじめ8人の歌人を、それぞれの和歌へ鋭い感性と人間への深い共感をもって、あたかも眼前にいる人の心情のように瑞々しく描き出した好著。タイトルは式子内親王の歌「はかなくて過ぎにしかたをかぞふれば花にもの思ふ春ぞ経にける」による。



『西行 魂の旅路』
西澤美仁編集
(¥840 KADOKAWA)

平安から鎌倉という激動の時代を生きた歌僧、西行。彼は生前「願はくは花のしたにて春死なむ その如月の望月のころ」と詠い、春の花の盛りを愛し、この歌のとおり如月の望月（2月15日の満月）の1日後に亡くなった。200首近くある西行和歌から60首を厳選した本書は、のちの日本文化に大きく影響を与えた文化としての西行を改めて読み解いている。



『The Secret Garden』
ミナリマ画
(¥1,800 HARPER DESIGN)

ハリー・ポッターシリーズなどの映画の小道具を担当し、ファンタジーの世界を生み出すロンドンのグラフィックデザインスタジオ「MinaLima」が手掛けた、フランシス・ホジソン・バーネットによる1911年出版の小説『秘密の花園』を題材にした絵本。花園の地図や秘密の鍵などが本の随所に仕掛けられ、物語の舞台となる春の花園に迷い込んだかのような錯覚にも。



『バッド・フェミニスト』
ロクサーヌ・ゲイ 著 野中モモ 訳
(¥1,900 垂紀書房)

アメリカで生まれ育ったハイチ系アメリカ女性で、数々の注目小説やエッセイを送り出してきたロクサーヌ・ゲイによる、さまざまな媒体への記事をまとめたエッセイ集。世界各地で女性たちが声を上げ始めた昨今、完璧でないがフェミニズムを信じる「バッド・フェミニスト」としての著者が、現代アメリカの文化状況に鋭く切り込み、女性の変化を促した話題の書。



『beの肩書き』
兼松佳宏 著
(¥1,000 グリーンズ出版)

「一人一人が『ほしい未来』をつくる、持続可能な社会」をめざすNPO法人グリーンズが立ち上げた「グリーンズ出版」から、第1弾として元greenz.jp編集長で勉強家の兼松佳宏による著書が発売。それぞれの肩書きを誰から「与えられる」もの＝doから、自分で「見つける」もの＝beと捉え直すことで、自分自身を見つめ直すきっかけになることを解いた1冊。

Real Talk

ぶらエディターズ

公式サイトで好評連載中の企画「ぶらエディターズ」
その選抜4人が語る、ここからのGINZA SIX

GINZA SIX がこれから 取り組むべきこと

——みなさんには「ぶらエディターズ」にご登場いただき、それぞれ専門のジャンルでGINZA SIXをぶらぶらと歩き楽しんでいただいたわけですが、あらためて振り返ってGINZA SIXの魅力や、他の商業施設と比べて違うことなど、気が付いたことはありますか？
マッキー・牧元（以下、牧元）：僕は「はしご酒」というテーマで、4人で行って1人1万円という条件でぶらぶらさせてもらいました。「はたして1万円でどこ

SIXには熟練のスタッフが多く配置されていて、ゲストがゆったりとした時間を過ごすことができるようにソファやチェアを置いた空間で最高のおもてなしを提供しているという話を伺い、たしかにそうだなと実感しました。ほかのブランドもそうですが、GINZA SIXのお店はどこもゆったりとした広さがあって、サービスだけでなく空間も特別ですね。
岡村佳代（以下、岡村）：私はGINZA SIXができると思い、富裕層と外国からのインバウンド狙いの館になるんだろなと思っていました。でも開業後、実際に足を運んでみると、そんなことは

マッキー：知らなかったなあ。
岡村：そこにしかない贅沢な時間を楽しめるので、私はGINZA SIXに来るたびに立ち寄ってチェックしているんですけど、ほかのブティックもそんなふうにはオリジナルなことをやってくれたら、もっと面白いだろうなと思います。
マッキー：僕も今、パティスリーのことを初めて聞いて行ってみたいと思いましたけど、まだまだ一般のお客さんには届いていない情報が多いんじゃないかな。ほかにはないGINZA SIXだけの楽しさというのは、イベントをやるとか、もっと伝えていくべきです。実際、僕は「ぶらミーティング」と称して、10名の参加者とともにはしご酒をする企画をやりましたけど（※GINZA SIXウェブサイトにてレポート掲載中）、ああいう試みとかをもっとやってもいいと思います。
山田泰巨（以下、山田）：奥ゆかし過ぎるところがあるかもしれませんね。僕もみなさんの記事を読んで、新しい発見がたくさんあって、そのおかげでGINZA SIXの印象もだいぶ変わりました。やっぱり谷口吉生氏の建築デザインが品が良いで、ちょっと敷居が高いのかなと勝手に思っていましたけど、一方でマッキーさんのように1万円を握りしめて、はしご酒が楽しめちゃうような幅の広さがある。そういう方向の情報の発信は本当に大事だと思います。

マッキー：少し話はズレるかもしれませんが、おいしい、おいしくないを判断するのに、純粋に味覚が果たす役割は15%ぐらいしかないと言われてるんですよ。松本：そうなんですか？
マッキー：一番の判断材料は情報なんです。たとえば、食べログで4.0を超えていたら、たいいていの人はそのお店はおいしいって思いますよね。ほかにも見た目や匂いもあるので、純粋に味覚だけの確な判断をしている人はほとんどいない。つまり、お店に行くまでにどんな情報を入れて、どういうふうな気持ちを上げられるかが、実はおいしさにつながって

るわけです。だからこそ、お店側にしてみれば、どういう情報を発信していくのが大切になってくるんですよ。
——そこは食に限らず、すべてに当てはまるお話だと思いますが、だとしたらGINZA SIXは具体的にどういった取り組みをしていけばいいと思いますか？
マッキー：今、食の世界はブランド化をしているので、ミシュランの星がいくつか、食べログの点数がいくつか、そういうところで安心するとか、おいしいはずだと思って行く人が多い。ただ、本来であれば、自分でおいしいものを知っていくほうが食文化や食へのリテラシーは高まります。そういう食いしん坊の人って、そんなに数は多くはないと思うんですけども、食べることが好きな人に対しては「こういうのはどうですか」と火を付けてあげると、どんどん深く入り込んでくれます。幅広いジャンルで個性豊かなお店が揃うGINZA SIXは提案の場、実践の場としてのポテンシャルが高いから、そういうことも試しやすいと思うんですよ。
山田：そうしたトライアルは食だけにかかわらず、美容とか、いろいろな分野でできそうな気がします。
松本：食と美容を掛け合わせても面白いかもしれないですね。
岡村：美は食から、というものもありますしね。ビューティと食べ物で、フロアもジャンルも超えて何かコラボイベントなんかをやってくれたら面白そう。ほかにもファッションとビューティで、この眼鏡にはこういうアイラインが合うとか。
松本：素敵。眼鏡ってすごく印象が変わるものだから、それと一緒に化粧も考えるというのは理に合っているし、面白いと思います。あと、美容の世界でも最近ジェンダーレスみたいなことがすごく言われていて、ファンデーションを使う男性なんかも増えてきているので、そうした最先端の提案も意識していけたらいいですね。それをも実現する力がGINZA SIXにはあると思います。

コミュニケーションを意識した 店づくりが求められる

山田：ここまで聞いてきて思うに、みなさんの意見に共通しているのは、体験ができるということなんじゃないのかなと。食なんてまさに体験の最たるものですけど、美容にしてもただスツールに座ってカウンセリングを受けるのではなく、ゆったりとソファに座りながら過ごすほうが間違いなく満足度は高いわけですね。
岡村：体験ということでしたら、この間ジュネーブに時計の取材で行ったとき、発見がありました。あるブランドが発表したコラボレートモデルだったんですけど、たとえば冒険家とのコラボレートモデルを買ったと、その冒険家の案内で北極のほうに流水を見に行く、みたいな体験が付いてくるんです。
松本：面白い。それを体験したいから買うって人は絶対にいますよね。
山田：いますね。つまり、北極までは無理だとしても、GINZA SIXでもそれぞれのお店で何かしら体験ができればいいと思うんです。そうでないと、わざわざリアルショップに来るアドバンテージはないじゃないですか。
岡村：本当にそうですね。ただモノを買うだけでなくネットのほうが便利ですし。
山田：お店に行かせるための動機付けとして、特にファッションだったり、プロダクトを扱っているお店でそういう提案があるといいのになって思います。そもそも銀座は販売のプロ、接客のプロが揃っている街であり、それがこの街の強さにもなっているの、コミュニケーションという部分をもっと意識したほうがいいと思うんです。
マッキー：これからの飲食店もそうです。コミュニケーション能力の高い人の存在がもっと求められてくる。
山田：やっぱりお店は人に尽きますよね。
マッキー：人に尽きます。いいお店というのは、結局、人がいいってことなんです。今の時代、おいしいものは世の中に

あふれているので、そうじゃなくて「あの人がいるから行こう」というのが大事。
松本：それはビューティの世界でも同じですね。実際、GINZA SIXのビューティフロアには「あの人」と顔を思い浮かべることができる販売員の方たちがたくさんいらっしゃいます。
マッキー：人というのは無限の可能性があるから、その面白さを追求したほうが絶対にいい。その人に興味が湧いたからお店に行ってみようっていう点では、食に関していうと、カウンターのあるお店も増えています。シェフと話しながら食べるというのが最高の体験になっているわけですね。
山田：カウンターは特等席ですよね。
岡村：GINZA SIXのレストランも、カウンターのあるお店が多いですね。
松本：カウンターはビューティフロアでも欠かせない存在ですが、特にGINZA SIXのお店では、冒頭でもお話しした通り余裕のある空間が、ここでしか体験できないおもてなしにも繋がっています。
岡村：「ぶらエディターズ」でGINZA SIXのカウンターをめぐる企画をやったら面白いかもしれませんね。
——せっかくの機会なので、ほかにこうしたいほうがいいといった提言やアイデアなどがあれば、ぜひ聞かせてください。
山田：以前から思っていたのが、お店にのれんをかけたらいのになと（笑）。全部のお店じゃなくてもいいんですけど、のれんをくぐってお店に入るみたいなスタイルだとにぎやかな雰囲気が出るじゃないですか。特に中央通りのGINZA SIXのメインエントランスにのれんをかけるのは、銀座という街ににぎわいを与える意味でも効果があると思います。
岡村：いいですね。のれんがあるの先に楽しいことが待っている感じがします。
松本：季節によってのれんを変えたりしてもいいですね。
山田：はい。建物の顔にもなるし、ハレの場である銀座の街並みにも合うと思うので、ぜひ実現してほしいです。

「ぶらエディターズ」とは？



GINZA SIXの公式ウェブサイト上で1年半にわたり展開している連載企画。ファッション、ジュエリー&ウォッチ、ライフスタイル、ビューティ、フードなど、各ジャンルに精通する個性豊かなエディターたちが館をぶらぶらと歩いて見つけた楽しみ方を綴っている。2019年1月までにVol.73 (73人)が登場。
<https://ginza6.tokyo/news-editors-articles>



Instagram 公式アカウントは「GINZASIX_OFFICIAL」で検索
#GINZASIX #ぶらエディターズ

参加してくれた方々

松本千登世 Chitose Matsumoto

美容エディター。航空会社勤務、広告代理店勤務、出版社勤務を経て、フリーランスに。雑誌や単行本など、美容や人物インタビューを中心に活動。多数の媒体でビューティ連載を執筆している。「ぶらエディターズ」ではVol.12に登場。



山田泰巨 Yoshinao Yamada

編集者。『商店建築』『Pen』編集部を経て、2017年からフリーランスで活動。建築、デザイン、アートなどの特集を中心に編集や執筆を手掛けるほか、展覧会の企画協力やカタログ制作にも携わる。「ぶらエディターズ」ではVol.42に登場。



岡村佳代 Kayo Okamura

ジュエリー&ウォッチジャーナリスト。女性に機械式時計の魅力を開蒙した第一人者として知られ、パーゼルやジュネーブの時計フェアの取材歴は女性ジャーナリストの中で屈指のキャリアを誇る。「ぶらエディターズ」ではVol.48に登場。



マッキー 牧元 Macky Makimoto

『味の手帖』取締役編集顧問、タベアルキスト。立ち食いそばから割烹、フレンチからエスニック、スイーツから居酒屋まで、年間600回外食をし、料理評論、紀行、雑誌寄稿、ラジオ、テレビにも出演。「ぶらエディターズ」ではVol.23に登場。



Six Boats

銀座の「記憶の海」に漕ぎ出す

この春 GINZA SIX 中央の吹き抜け空間に登場した《6つの船》インスタレーションを手掛けた塩田千春さんがそこに込めた想い

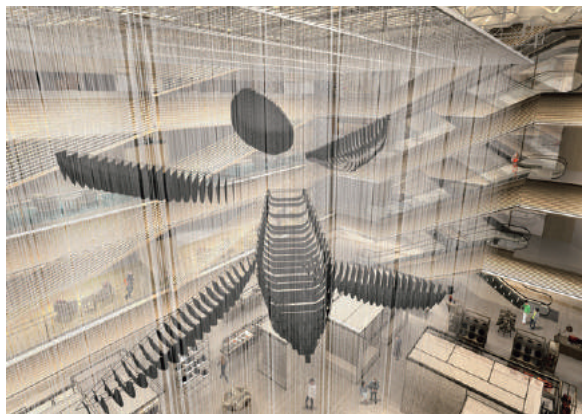


Chiharu Shiota

塩田千春

今年は最大規模個展も開催
現代美術界最注目の作家

1972年、大阪府生まれ。1997年からベルリンを拠点に活動。2008年、芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。丸亀市猪熊弦一郎現代美術館や、国立国際美術館で個展を開催。横浜トリエンナーレ、シドニーやキエフのビエンナーレにも参加。2015年のベネチア・ビエンナーレで日本館代表。



左：GINZA SIXの吹き抜け空間での完成予想図。戦後多くの困難を乗り越え復興を遂げてきた銀座の「記憶の海」を6隻の船が出航、前進する。展示は2月27日（水）～10月31日（木）予定。中：本作のための設計図。デザインは実在する船から着想。その図面やGINZA SIXに関する資料などをじっくり見ながら、空間をイメージしてアイデアを練った。右：旧印刷工場である歴史的なこの建物全体がアトリエとなっており、塩田以外にもほか数名のアーティストがここで制作を行う。ベルリンを拠点にして約20年。この街の魅力は「あらゆる国の人が集まり、自由で、人にも干渉されないこと」だという。

美術館のような感覚に出会ってほしい

ドイツ・ベルリンの北に位置するヴェディング地区、黄色い煉瓦造りの旧印刷工場が、塩田千春のアトリエだ。2015年のベネチア・ビエンナーレ国際美術展で、日本館の代表を務めた塩田の作品に感銘を受けた建物のオーナーから、ぜひこの広大な空間をアトリエとして使ってほしいとアプローチがあり、制作の場をここに移したという。展覧会やアートフェアのための作品などが所狭しと並ぶ、塩田の豊かなアイデアがかたちとなって現れる場所。そのエネルギーに満たされたアトリエで、GINZA SIXの吹き抜け空間に登場する新作インスタレーション《6つの船》への想いを聞いた。

第一に海外の美術館での展覧会や、舞台美術などを中心に仕事をしてきた塩田は、今回のような商業施設でのコミッションワークをどのようにとらえているのだろう。「GINZA SIXを手がけた建築家、谷口吉生さんの建築の中で作品をつくることは、同じく谷口さんによるニューヨーク近代美術館（MoMA）で展示をしているような気持ちになります。美術家としては、すごうれしくて」。塩田は2012年にも谷口の代表建築のひとつ、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館で個展をしている。また、吹き抜け空間におけるGINZA SIXのこれまでのプログラム、草間彌生（2017年）やダニエル・ビュレン（2018年）の展示を通して、この施設におけるアートの企画者たちへのリスペクトがあるようだ。ちなみに2017年にはパリにある世界最古のデパートとしても著名な「ボン・マルシェ」でも展示を行っている。「企画はルイ・ヴィトン財団で、彼らは美術館も持っていて、コレクションも所有しています。つまり商業的だけれど、一方で美術はコレクターの力が強くて、アーティストはいろんなところで、彼らに助けられています。そのうえで誰もが気軽に出かけることのできる商業施設での展示だからこそ、アートとの新鮮な出会いの場にもなると語る。「ヨーロッパだとクリスマスとかに美術を買ってプレゼントするとか、普通のお家に行ってもまず作品があるように、美術が身近にあり、美術館にもよく足を運びます。アーティストという存在そのものも、そんなに特別じゃない。日本でももう少し

そういう状況があるといいなと感じています」。今作にはそんなアートを取り巻く日本の状況や、GINZA SIXを訪れる人たちへの塩田の願いも込められている。「GINZA SIXの場合、ほとんどの人がショッピングに来るので、そのときにふと作品を見て、なんだろうと思って、美術に入り込んでもらえたら。買い物をするという行為は、どこか欲求を埋めたいという気持ちもあるのではないのでしょうか。もしかすると美術を見ることで、その欲求が埋まるかもしれない。美術館に行って1枚の絵を見たときに、何かがずっと心に伝わってくるとか、GINZA SIXでもそういう瞬間が生まれるといいなと思います」。

今回、吹き抜け部分に展示される全長5メートルの6隻の船。船は人や物だけでなく、時間をも運びながら、いずれかの方向に進ずるものであり、存在と不在、生と死、家族や人とのこれまでの巡り合わせを経て「存在とは何か。生きているとはどういう意味なのか。私たちは何を求めて、どこへ向かうとしているのか」を追求してきた塩田の精神世界に共鳴する。

「6隻というのはGINZA SIXから取った6で、船の図鑑から自分の好きな形を探し出したりしたさまざまな船が集まって、いろいろな方向を向きながら前進しようとしている。また真下と真上から見ると、花の形にもなっています。GINZA SIXがあまりにも華やかだったので、そのムードに合うようにお花の形にしました。白い糸は霧のような雰囲気が出ると思い、そこにぼんやり浮かぶ船に黒色を使えば、船が宇宙空間に浮いているように見えるのではないかと考えました。パリのボン・マルシェでは、黒い糸に白い船だったのでその反対の色、GINZA SIXでは白い糸と黒い船でいこうと思いました」。

なお、6月20日から10月27日までは東京・森美術館での過去最大規模にして、20年以上にわたる塩田の活動を網羅的に体験できる個展も始まる。今年のアート界最注目作家の一人といえる塩田が生み出した6隻の船に誘われて、作家のさらなる海原へ。まずはGINZA SIXから、ともに漕ぎ出してほしい。

Major Works

眠っている間に

2002

スイスのルツェルン美術館で開催された「アナザー・ワールド」展でのインスタレーション。黒い糸で複雑に編まれた空間に内包されるような病院のベッド。本展のオープニングでは、このベッドで実際に白い寝間着を着た女性たちが眠るパフォーマンスも行われた。



©Chiharu Shiota *During Sleep*, 2002 Kunstmuseum Luzern, Lucerne, Switzerland Photo by Sunhi Mang

静けさの中で

2008

焼けたグランド・ピアノと椅子から立ち上がるように編まれた黒い糸。これは塩田の幼少期の記憶、近所で起こった火事の現場から引き出されたピアノから生まれた。黒い糸は、もう音を奏でることのできなくなったピアノからの音のイメージであり、存在の不在。



©Chiharu Shiota *In Silence*, 2008 Centre PasquART, Biel / Bienne, Switzerland Photo by Sunhi Mang

松風

2011

海女の姉妹の悲恋物語、能「松風」を基に、ドイツ語でオペラ化された本作の舞台美術を担当。欧州の数都市で、また日本の新国立劇場で上演されている。作曲は日本の現代音楽界を代表する細川俊夫であり、演出・振付は現代ダンスの第一人者、サシャ・ヴァルツ。



©Chiharu Shiota *Matsukaze*, 2011 Opera by Toshio Hosokawa, directed and choreographed by Sasha Waltz Photo by Bernd Uhlig

掌の鍵

2015

第56回ベネチア・ビエンナーレの日本館代表となった塩田の展示。この赤い糸から降り注ぐ計18万本の鍵に、古びた2隻の船は、大きなインパクトをもって迎えられた。世界各国のメディアがこぞで取り上げ、作品のイメージは本ビエンナーレの代名詞に。



©Chiharu Shiota *The Key in the Hand*, 2015 Japan Pavilion at 56th Venice Biennale, Venice, Italy Photo by Sunhi Mang

GINZA SIX Info

Shop News



CIRCOLO 1901

チルコロ 1901

3月26日(火)まで
THE POP UP 4th
【4F】

コレクションのほとんどが、オリジナルのジャージーやカットソーで構成されるイタリア・パリ生まれのCIRCOLO 1901。テ일러リングのディテールを踏襲した端正なルックスとストレスを感じさせないラフな着心地がこのブランドの最大の魅力。メンズ・ウィメンズが一堂に揃うのは今回のポップアップのみ。



DEVIALET

デビアレ

3月26日(火)まで
THE POP UP 3rd
【3F】

2007年にパリで創設。音響技術の分野で革新を続け、世界的な評価を得ているオーディオブランドがGINZA SIXに初登場。人気のワイヤレススピーカーPhantomには、画期的技術を結集。アナログとデジタルを同時に使う特許技術を搭載することにより、これまでに体験したことのない音のクオリティーを楽しめます。



Chloé
POP UP BOUTIQUE

クロエ ポップアップブティック

3月26日(火)まで
SIXIÈME GINZA 内 POP UP
【2F】

新アイコンバッグ"Chloé C"のローンチを記念したポップアップブティックがシジュール・ギンザで開催中。今季のテーマである赤道直下の太陽の下を旅するクロエガールをコンセプトにしたブティック内には、"Chloé C"バッグがいち早く登場するほか、Tシャツ2色と大人気のスニーカー《Sonnie》の限定カラーも登場。



Le Bonheur PARIS

ル・ボヌール パリス

3月5日(火)～3月31日(日)
THE POP UP B2F
【B2F】

フランスから直輸入される果実感たっぷりのパート・ドゥ・フリュイ18フレーバーと、AOP 認証の上質な発酵バターを贅沢に使用したキャラメル23フレーバーがラインナップ。紅茶はもちろん、ワインやシャンパンのマリアージュとしてもおすすめです。また、3月15日(金)からはGINZA SIX 限定でキャラメルの詰め放題を開催。



Dali and
20th Century Art

ダリと20世紀アート展

3月6日(水)まで
Artglorieux GALLERY OF TOKYO
【5F】

スペインが生んだ20世紀を代表する奇才、サルバドール・ダリ。夢や無意識下でしか起こりえないような奇妙で不可思議な世界を写實的に描いたシュルレアリスムの作風は、多くの人を圧倒し、人気を博しました。今展では、ダリの版画作品を中心に、同時代を生きたピカソやシャガールなどの作品もあわせて展示。

GINZA SIX アプリ



持ち歩けば、ショッピングが変わる

多様な機能が詰まったGINZA SIXアプリ。GINZA SIXでのショッピング体験をさらに充実させる機能が満載です。登録費・年会費無料、ぜひダウンロード・登録して、GINZA SIXでのショッピングをお楽しみください。

- お買物時にアプリ提示で100円(税抜)につき1ポイント付与
- GINZA SIXの最新ニュースや会員限定情報を配信



- 館内のショップやサービスをスマートにご案内
- レストラン予約

アプリのダウンロードは右のQRコードから

※iPhoneはiOS9以上、AndroidはAndroid4.1以上が対象



GINZA SIX カード

GINZA SIX カード会員募集中

GINZA SIXカードはお買上げ金額に関わらず駐車場のご利用が最大2時間無料になるほか、年2回のポイントアップやご利用金額に応じたプレミアムサービスをご用意しております。



プレステージ
〈年会費50,000円(税抜)〉

GINZA SIX内でのご利用
金額100円(税抜)につき
3 ポイント

駐車場
2 時間まで無料

※一部ポイント対象外店舗がございます。



ゴールド
〈年会費5,000円(税抜)〉

GINZA SIX内でのご利用
金額100円(税抜)につき
2 ポイント

駐車場
1 時間まで無料

詳しい情報はこちら



GINZA SIX 駐車場

GINZA SIX へのアクセスは
お車のご利用が便利です

1 早朝から深夜まで営業 6:00～26:00

2 銀座エリア最大級 445台

3 店舗ご利用のお買上げ金額によるサービス

※通常利用料金 300円(税込)／30分

3,000円以上のお買上げ
1 時間無料

10,000円以上のお買上げ
2 時間無料

30,000円以上のお買上げ
4 時間無料



◎GINZA SIX各店舗にて加算します。各店舗でのお支払い時に駐車券をご提示ください。◎お買上げ金額は税込・合算可です。◎当日のお買物のみ対象となります。◎一部対象外の店舗がございます。

編集後記

節目、はじまり、希望、出会い――。

そんな言葉が紐づいてくる春は、自然界の芽吹きのみならず人間界のステージにも、ポジティブな変わり目をもたらす揺るぎない季節です。

一方で世の中がものすごいスピードで変化を続け、もう随分と長いこと多様な価値の許容が求められてきた中で、さすがにいいよいよ、私たちも手放せなかった何かを新しい何かに入れ替え、それぞれの答えに向かって強く一歩を踏み出すときが熟したように感じるこの頃でもあります。

「変わろう、そろそろ、春だから。」

今号のテーマは、そういう意味で、ひとつの合言葉としました。

一人一人の選択が、何処かの誰かにとってのインスピレーションになるような。それが当たり前になったとき、まだまだ東京に、銀座に、世界に、よろこびが満ちあふれるような。

そんな願いをGINZA SIXが2周年を迎えるこの春に寄せて。

GINZA SIX magazine 編集部

Access

電車でお越しのお客様

東京メトロ／銀座線・丸の内線・日比谷線「銀座駅」A3出口より徒歩2分

※東京メトロ 銀座駅、東銀座駅よりB2Fへは、直結の地下連絡通路をご利用いただけます

GINZA SIX magazine \ SPRING 2019

Publisher : GINZA SIX Retail Management Co., Ltd.
Editor in Chief : Yuka Okada (edit81)
Art Director & Title Design : Soichiro Nakatsu (So,Design & Co.)

p.00 Photos : Kazuki Sato (sasaki office) Text : Yoshinao Yamada
Edit : Yuka Okada (edit81)
p.01 Text : Yoshinao Yamada Edit : Yuka Okada (edit81)
p.02-07 Photos : Takemi Yabuki (W) Styling : Chiaki Furuta
& Cover Hair & Makeup : Mika Iwata (mod's hair)
Model : Ari (Unknownmodel) Edit & Text : Kaori Watanabe (FW)
p.08-09 Photos : Asa Sato Editorial Support : Teruno Taira
Edit & Text : Kaori Watanabe (FW)
p.10-13 Photos : Masanori Akao Styling : Yukari Komaki
Edit & Text : Rica Ogura
Background of Composite Image :
©Yoichi Kamihara /SEBUN PHOTO/amanaimages
p.14-19 Photos : Chikashi Suzuki Styling : Megumi Yoshida
Hair : Jun Goto Makeup : Coco (SEKIKAWA OFFICE)
Models : Junli Zhao (BRAVO), Richard (Image)
Edit & Text : Itoi Kuriyama
p.20-25 Photos : Yuto Kudo Styling : Takeshi Toyoshima
Prop Styling : Naomi Iwase
Edit & Text : Jun Namekata (The VOICE)
p.26-29 Photos : Osami Watanabe Styling : Ritsuko Mochizuki (KIND)
Edit & Text : Naho Mihirogi
p.30 Photo : Eizo Kuzukawa Styling : Chiaki Furuta
Edit & Text : Kaori Watanabe (FW)
p.31 Photos : Kazuki Sato (sasaki office)
Edit & Text : Yuka Okada (edit81)
p.32-33 Photos : Yuichi Sugita Illustration : Yu Nagaba
Text : Masayuki Sawada Edit : Yuka Okada (edit81)
p.34-35 Photos : Max Creasy Text : Miki Kanai Edit : Yuka Okada (edit81)

English copy by RendezVous Co., Ltd.
Printed by Koho Co., Ltd.

Cover :

GINZA SIXの屋上庭園、GINZA SIX ガーデンにて。強さを増した春の日差しを浴びて。プレザー¥92,000／ラグ アンド ボーン 【3F】 トップス¥75,000／アレキサ
ンダー ワン 【3F】 パンツ¥64,000 (3月中旬展開予定)／3.1 フィリップ リム 【3F】

Information

所在地 : 東京都中央区銀座6-10-1
営業時間 : ショップ・カフェ 10:30～20:30 レストラン 11:00～23:00
※店舗・施設により異なります。
お問い合わせ : 03-6891-3390
(GINZA SIX 総合インフォメーション 受付時間10:30～20:30
※店舗休業日は除く)

詳しくはGINZA SIX 公式WEBサイトをご覧ください。



https://ginza6.tokyo

*掲載商品の価格は全て税抜きです。 *掲載情報は2019年2月15日時点でのものとなります。



A Time of Change